

第5回会議で出された主な意見 (家庭との連携や基本的生活習慣の向上)

議論の進め方に関する意見

家庭と地域と学校の3者の関係が非常に曖昧なまま話が進みがちなため、現状の共通認識とともにその手立てを議論すべき。

子どもの基本的生活習慣に関する意見

アンケートによる挨拶は結果なのかもしれない、むしろ子どもと地域との結び付きが弱いということが課題として表されているのではないか。

「早寝、早起き、朝ごはん」から出発すべきで、何故それが必要かというQ & A的な北九州市版の資料があれば、学校に来られない保護者なども理解できる。

食事をとり、排便をして、学校に行くという基本的な生活リズムを、保護者に理解してもらう方法を考えないと、子どもの心身の健やかな発達は望めない。

生活リズムをつけるためには、早く寝て、早く起きること。朝食をとるまでに、少し余裕がもてるような起き方するということが大事だ。

遅寝が問題なので、「北九州市の子どもは早く寝る」ことに絞ってプロジェクトやキャンペーンに取り組んではどうか。

小学校中学年以上になれば、「生活習慣向上について話し合い努力する」といった子ども自身の取り組みであることを、アピールする必要がある。

子ども自身が発達段階に応じて「自らの健康や学力、成長のためには早寝早起きなどの生活習慣を自立・自発的に作っていく」ということを積み上げ、学び取ることが必要だ。

家庭に関する意見

最低限、食事の時にはテレビを見ないといった「ノー・テレビ・タイム」の実施を各家庭で意識的に取り組む。

家庭でのチェックシートの活用など、学校と家庭との橋渡しを強化するような取り組みを全市的に行うことが必要だ。

保護者は、食事、バランス、早寝など、子育てについて様々なことに気をつける必要があるので、最も子どもの生活習慣が向上するのはどこなのか、それを絞るための仕組みがあれば子育てがしやすい。

親がきちんと叱るということは大事だ。それができるようになるためにどうしたらいいか。

子どもの身体の成長には規則的に寝るなど規則正しい生活習慣が必要。子どもは食べて寝て運動しないと、健やかに成長しない。特に低学年は成長期なので、その重要性を保護者達に理解してもらう必要がある。

保護者は生活リズムと成績との関連性が分かっていないので、それらをつなげるための環境作りが必要。

地域や学校に関する意見

先生が保護者に対して、子育て方針を述べ、「親も一緒にやって下さい」ということを言えばとてもインパクトがある。

運動するとお腹も空きご飯も食べ、夜眠れるため、親子で一緒にゲームや軽い体操を行い、親子での係わりや、運動する楽しさを味わえるような取り組みが必要。

子どもが「何時になったら寝る」という習慣を身に付けるためには、子ども自身の努力も必要だが、運動や遊びなど思い切りエネルギーを放出するような活動と場の充実も必要。

社会・企業・全体に向けた意見

早く寝かせる方法を、社会全体で考えていくことが必要で、北九州市は24時間営業をやらないということはできないか。

「テーマ」は多くても3つ程度に絞り、覚えられるようにしてやっていく事が必要。

挨拶や基本的な生活習慣の問題は、大きなうねり、市民運動とすべき教育課題だ。

「子どもの生活習慣条例」が出来れば、北九州市の教育は大きく発展する。

幼稚園、保育所、小・中学校など市全体で同じ目標を定めていけば力が大きくなるのではないか。

その他の意見

適度に運動する場を確保しなければ、体力が低下し、子育てなど生活の様々な場面で支障をきたす可能性がある。

スポーツの持つ力は、規範意識や挨拶など非常に大きなものなので、もっと利用し役立てていただきたい。

子どもに目の前で本物のスポーツを見ることができるような機会を与えてあげられたら、もっと元気づくのではないか。

PRのためのポスター等は、公的機関だけでなく、電車やバス、繁華街など人目につく場所などに張るなどの工夫が必要だ。

「子どもを育てる10か条」の普及という取り組みだけでは不十分である。

挨拶は、声を出し慣れてないと出しにくい。この会議から元気良く挨拶を始めてみてはどうか。そうすれば現場なども変わってくる。

挨拶と規範意識に対して、アンケートの数字と実際との間にギャップがあることと、多くの子どもが挨拶の仕方が分かっていないことをとても懸念している。

道徳は、マニュアルを作り、保護者に理解をいただきそれからしつけをする。予算があれば、テレビ等で子どものしつけに関するものを流せば、いい結果が出るのではないか。

早く寝ることができたら、子どものメディアとの接し方など、子どもの文化をどうやって支えていくかといった、取り組みを連動させることも必要だ。